

市民に親しまれる体育館をめざして

市では、現在、新体育館の規模や機能、概算事業費、事業スケジュール、整備手法などをまとめた「新体育館建設基本計画」の策定に向けた取組を進めています。今月は、この計画の策定状況についてお知らせします。



新体育館の規模・機能等について(検討中)

現段階(第4回審議会まで)での新体育館の規模・機能についての主なものは、下記のとおりです。今後、さらに検討が進められます。

●県大会等が開催される県立浜山体育館とのそれぞれの役割をふまえ、市民のスポーツ活動拠点としての機能をメインとします。2階建てとし延床面積は9,000m²程度。

●主な施設の構成と想定規模

- ①メインアリーナ
2,000m²程度で、分割利用を可能とし、観客席については1,000席程度の固定席を配置。
- ②サブアリーナ
1,000m²程度で、分割利用を可能とし、2階に観覧スペースを確保。
- ③多目的室、会議室・大会役員室
分割利用できるようにし、多目的室はダンス等の利用ができるように配慮。
- ④ランニングコース
大会時のアップや雨天時・冬季など日頃のスポーツ活動等に利用できるランニングコースを館内に設置。
- ⑤駐車場・駐輪場
駐車場は400台程度を確保し、隣接する県立大学出雲キャンパス駐車場との相互利用を検討。駐輪場も設置。
- ⑥緑地・憩いの広場
敷地内には、市民の憩いのスペースを設け、植栽など景観に配慮。
- ⑦付随する機能
コンベンション、避難所にも活用できるよう配慮。

市は、昨年10月に出雲市スポーツ振興審議会(今岡一朗会長以下19名)に新体育館建設基本計画の策定について諮問しました。

また、市は、施設の規模・機能等について、競技団体や市民を対象にした説明会の開催や、広報いずもや市ホームページを通じて、メールやファクスによる意見を受け付け、広く市民から意見を聴いてきました。

その意見を踏まえ、審議会では、松江市総合体育館や県立浜山体育館の視察を行いながら、計画案について審議されています。

今回は、2月6日の第4回会議で審議された主な内容についてお知らせします。

今後、概算事業費や事業手法についても審議が進められ、市に答申されることになっていきます。